



web

溪泉

滋賀県立日野高等学校

溪泉同窓会

第17号

2015. 6. 22.(月)

編集と発行：滋賀県蒲生郡日野町上野田150 日野高等学校内 事務局 0748-52-1200

## 会長・副会長は留任、活動計画などを審議



### 27年度第1回常任幹事会行われる

5月26日(火)、本会の今年度第1回常任幹事会が行われました。

門坂会長のあいさつに続いて、校務で欠席の校長先生に代わって教頭の杉本先生が学校の近況を報告。校舎壁面への校名表示で同窓会からの協力に対するお礼の言葉などが述べられました。

協議事項は、①役員選出 ②活動総括 ③活動方針・事業計画 ④会計報告 ⑤当面の活動（議案は、次ページから掲載。なお、役員表と会計報告はHPへの掲載は行いません。お知りになりたい会員の方は事務局までお問い合わせください）で、全議案が承認されました。

平成27(～28)年度役員は、門坂会長、藤澤・西田両副会長が留任。常任幹事には平成22年卒の園田巧さんなどフレッシュなメンバーも加わりました。

## びわこ総文(合唱部門)を見に行きませんか

活動方針・事業計画で、会としての今年度の事業は、7月末に本県を会場に行われる第39回全国高校総合文化祭(2015びわこ総文)の見学が提案されました。本校音楽部が中心になって活躍する合唱部門(7月30日、大津・びわ湖ホール)を見学します。「滋賀県合同混声合唱」として午前の最後に発表がありますので、その見学を中心としたプランを作ります。平日ですので、参加の難しい方もおられると思いますが、一昨年の橋本忠太郎展同様、常任幹事に加えて広く一般会員、PTA・ご家族なども参加していただければ、という企画です。

詳細は、常任幹事に通知し、「web 溪泉」でもお知らせします。

(写真は昨年12月のわたむき合唱祭で発表する音楽部員と「湖<sup>うみな</sup>楠」ちゃん)



# 平成 25・26 年度活動総括

## 【平成 24 年度までの取り組み】

平成 17 年(2005 年)に創立 100 周年を迎えた滋賀県立日野高等学校は、一学年 4 学級の総合学科の高校として、地域になくてはならない存在となっています。

17,000 人を超える本会の会員は、地域のみならず各界・各分野で多数活躍し、在校生に元気を与える存在となっています。

ところが、本会はしばらく総会等の定期的な活動を休止した状態が続いていました。このままでは近い将来に予想される高校再編計画等に対応できないのではないかと、という会員諸氏からの声を受けて、平成 22 年(2010 年)2 月に 6 年ぶりに常任幹事会を開き、日常的な活動の再建に向けて取り組んできました。

その後、平成 22 年度より同窓会報『溪泉』を発行(復刊)、学校ホームページ(HP)内にその電子版『Web 溪泉』を設けて、随時更新してきました。

また、同年には県の高校再編計画による日野高校の統廃合問題が懸念される中、「県立日野高校の存続を求める請願」を P T A・後援会と本会の三者連名で町議会に提出、11 月には同趣旨の要望書を知事と県教育長に提出しました。

平成 22 年度末に門坂新会長、藤澤・西田両副会長体制を確立し、平成 24 年 1 月には総会を行い、これまでの経過報告、会計決算・監査報告、の承認を受けました。

## 【平成 25・26 年度の取り組み】

平成 25・26 年度活動方針では、(1)組織活動・広報活動の重視、(2)事業の実施、(3)母校への寄与、を 3 本柱に掲げました。

この間、常任幹事会の定例開催、会報『溪泉』の年 1 回の発行、『Web 溪泉』の更新などを定着させてきました。

会報は全会員に送付し、その都度「会報発行協力金」を募るという独立採算方式で発行してきましたが、目標額に達していないため、当初の契約により本会から毎年 50 万円の負担金を支払っています。このことについては、広報活動の重要性という観点から常任幹事会で審議され承認を経て行われています。

会報発行時に、本会の活動を支える年度幹事諸氏にアンケート調査を依頼しましたが、630 通の依頼に対して返信があったのは 26 通にすぎず、個別学年・学級の同窓会はあっても溪泉同窓会としての運営の困難さが改めて浮き彫りになりました。

また、当初 2 年に一度総会をひらくという提案がなされましたが、参加者が見込めないことなどから、会長交代時などだけでよいのではないかと、ということになりました。

組織活動・広報活動以外の事業としては、平成 25 年 6 月に琵琶湖博物館で開催中の本校ゆかりの植物学者・橋本忠太郎展の見学を行いました。

さらに、母校の充実・発展に寄与する活動としては、毎年、部活動奨励金を 20 万円支出してきました。

# 平成 25・26 年度活動日誌

(平成 25 年度)

- 2013.04.26. 「We b 溪泉」更新(前年度第 3 回常任幹事会の報告)
- 2013.05.14. 第 1 回常任幹事会(出席 21 名、委任状 5 通)  
新年度役員紹介、活動総括、活動方針・事業計画  
橋本忠太郎展見学、会報『溪泉』第 4 号について、など。
- 2013.05.17. 「We b 溪泉」更新(橋本忠太郎展の見学会を紹介)
- 2013.06.02. 橋本忠太郎展見学(出席 7 名)
- 2013.07.23. 第 2 回常任幹事会(出席 17 名、委任状 10 通)  
会報『溪泉』第 4 号企画・編集、など。
- 2013.08.27. 「溪泉・活躍してます同窓生」の取材で佐々木正美さんを訪問。
- 2013.12.06. 会報『溪泉』第 4 号発行
- 2014.01.20. 第 3 回常任幹事会(出席 16 名、委任状 11 通)  
26 年度活動計画の作成にあたって一総会をどうするか、  
年度幹事アンケート、会計報告、など。
- 2014.02.07. 「We b 溪泉」更新(常任幹事会の報告、校舎耐震工事)

(平成 26 年度)

- 2014.05.26. 第 1 回常任幹事会(出席 16 名、委任状 13 通)  
平成 25 年度活動のまとめ、26 年度事業計画  
年度幹事アンケート、会報『溪泉』第 5 号について、など。
- 2014.06.06. 「We b 溪泉」更新(常任幹事会の報告)
- 2014.07.23. 第 2 回常任幹事会(出席 16 名、委任状 11 通)  
会報『溪泉』第 5 号企画・編集、など。  
年度幹事アンケート、名簿のコピーについて、など。
- 2014.08.08. 「We b 溪泉」更新(母校耐震化工事)
- 2014.08.20. 「溪泉・活躍してます同窓生」の取材で中田穰さんを訪問。
- 2014.11.13. 会報『溪泉』第 5 号発行
- 2015.01.09. 「We b 溪泉」更新(新年号)
- 2015.02.02. 第 3 回常任幹事会(出席 18 名、委任状 12 通)  
25・26 年度総括の作成にあたって、名簿の作成、  
年度幹事アンケートの結果報告、役員改選案、  
常任幹事会の出席要請・定足数、など。

## 平成 27・28 年度活動方針・事業計画(案)

「少子高齢化」から「人口減少社会」へ。そして、「地方消滅」「選択と集中」などということばがマスコミを賑わし、小中学校の統廃合の波は高等学校にも及んでいます。県の高校再編計画が進み、彦根西高、長浜北高など百年以上の歴史と伝統をもつ高校でさえ募集を停止しました。今後、遅くない時期に第二、第三の再編計画があることも予想されます。

一方、壮年世代の長時間・過密労働、若者の雇用不安等の社会環境は、組織活動全般を忌避する傾向を生んでいます。加えて、同窓会名簿から「個人情報」を悪用した詐欺等の犯罪行為が後を絶ちません。これらの点からも同窓会活動が敬遠され、否定的な目で見られ、活性化していません。

しかし、こうした時代であるからこそ、地域を守り、母校を守る活動が今こそ重要になっているのではないのでしょうか。創立 110 周年を迎えた今、溪泉同窓会の存在意義はますます重要になっていると言えます。

(1) 会員相互の連携・親睦の場として、組織活動・広報活動を重視します。

①会則第 7 条および第 10 条の規定を念頭におきつつ、総会は会長交代時などの開催とし、規定により当面は常任幹事会の決定を総会決定に代えます。

②会報『溪泉』の定期刊行(年 1 回)体制を確立し、平成 27 年度に第 6 号を、平成 28 年度に第 7 号を発行します。

③情報化・速報化の時代の要請に応え、会報の電子版『Web 溪泉』を日野高校のホームページ(HP)内に設け、随時更新します。

<http://www.hino-h.shiga-ec.ed.jp> → 渉外 → 同窓会

④学年・学級・地域同窓会などの情報提供・連携に取り組みます。

また、同窓生の活躍情報を把握し、取材・寄稿などを通して多くの同窓生に広めます。

⑤ひきつづき、母校の卒業式まえに同窓会入会式を行い、新会員を迎えます。

⑥個人情報の保護に留意した上で、会誌『溪泉』(名簿) 第 14 号を平成 28 年(2016 年)秋に発行(5 年に一度の定期発行)します。そのために平成 27 年度当初より(株)サラトの協力により発行準備を進めます。会報第 6 号に協力依頼を同封し、その後「調査カード」を送付します。

(2) 組織活動、広報活動以外に年に 1～2 回程度、会としての事業を行います。

できるだけ、地域や本会会員と関わりのある事業をめざします。

当面、本年度は夏休みに滋賀県を会場に行われる第 39 回全国高等学校総合文化祭(2015 滋賀びわこ総文)の見学を、常任幹事の研修会というかたちで行います(一般会員や会員外の方々の参加も歓迎します)。

(3) 母校の充実と発展に寄与する活動に取り組みます。

①生徒数減にともない、生徒会費・学校後援会費の収入が減少するなか、母校生徒会係

からの要請を受けて平成 24 年度から始めた「部活動奨励金」（年額 20 万円）をひきつづき支出します。

②母校の教職員・在校生や地域の人々とともに魅力ある学校づくりの一翼を担います。

③県教育委員会の「高等学校再編計画」が、今後日野高校に及ぶことも懸念されます。

「蒲生野に文化の使命をにない一世紀」、歴史と伝統のある、地域になくてはならない存在としての日野高校の存続・充実・発展のために、必要に応じて学習や運動に取り組みます。